

肝臓大学新聞

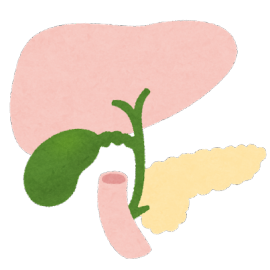
第8号

令和4年2月発行

これまで7回にわたり肝臓大学新聞という形式で肝疾患に関しての情報をお伝えしていますが、そもそも肝臓というのは私たちの体においてどのような働きをしているのでしょうか。日本では肝という漢字は「肝心」や「肝要」のように特に大事なものを指す言葉として使われています。今回は肝臓の主な機能についての基礎知識をお伝えしたいと思います。

肝臓のはたらき

肝臓は横隔膜のすぐ下にあり、胆汁を分泌する臓器です。成人で重さが1.0〜1.5kg程度あり、前からみると三角形の形をしています。肝臓は人が生きる上で必要不可欠な働きを担っていて、その機能は多岐にわたります。



代謝作用

人は栄養素をそのままの形で使用、保存することができません。消化管から吸収された糖質、アミノ酸、脂質といった三大栄養素をはじめ、ビタミン、鉄などさまざまな物質が肝臓において利用しやすいに分解、合成、貯蔵されています。この働きを代謝といいます。

必要以上にカロリーを摂取した場合には肝臓に脂質が蓄積され、脂肪肝となって現れます。また肝臓は糖質の貯蔵、必要時の血中への放出の機能を担っているため、肝硬変など肝機能が著しく低下した場合には高血糖、低血糖になりやすくなります。

解毒作用

肝臓には私たちが摂取したアルコールや薬剤、体内で生成されるアンモニアを無毒化し、尿や胆汁中に排泄する作用があります。必要以上アルコールや薬剤を摂取すると処理が追いつかなくなり、肝臓に負担となり肝機能障害の原因になります。

胆汁生成

肝臓には胆汁の生成・分泌という働きがあります。胆汁には脂質の吸収を助ける胆汁酸を含んでおり、肝臓から胆管を通じて十二指腸へと排泄されます。体内に脂質が入ると胆嚢が収縮し、十二指腸へと多量の胆汁が排泄されるような仕組みになっています。

免疫機能

体内に侵入してきた細菌やウイルスなどの異物を食食、消化して除去する細胞をマクロファージと呼びます。肝臓にはクッパー細胞と呼ばれるマクロファージが存在し、細菌やウイルスに対する生体防御機能を担っています。またクッパー細胞は古くなった赤血球を破壊する働きもあります。

ここに書いたもの以外にも肝臓には様々な機能があり、生きる上でとても重要な臓器です。コロナ禍で運動不足や生活習慣の変化があり、脂肪肝が増加しているとの報告も出てきております。皆様におきましてもご注意ください幸いです。

文責 松澤 尚徳